

# ～世界遺産推進プロジェクト～

## 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」 & 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」



長崎市は将来の都市像へ向かうために特に進化が必要な重点分野(経済、まちの形、まちを支える仕組み)を具体化するため、13の「重点プロジェクト」を選定しています。

その重点プロジェクトの中の1つに「世界遺産推進プロジェクト」があります。

このプロジェクトでは“2つの世界遺産があるまち”の実現に向け、世界遺産への登録手続きを進めると共に、登録後を見据えて受入態勢を充実させることで、長崎を訪れる人を増やし、まちに活力を生み出すことを目指しています。

今年7月、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界遺産に登録されました。今後は平成28年に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」を世界遺産に登録されることを目指して取り組んでいきます。



# 世界遺産とは

世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から引き継がれた貴重なたからものです。これら人類共通の遺産を未来に守り伝えていくため、1972年にユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が「世界遺産条約」を採択しています。現在、191カ国が条約を批准しており、世界遺産はこの世界遺産条約に基づく世界遺産一覧表に記載された遺産のことで、「文化遺産」、「自然遺産」及びその両方を兼ね備えた「複合遺産」に分類されています。

**文化遺産** 世界的にみて価値の高い建造物、記念物や彫刻・絵画、文化的景観など

代表例 ▶ メンフィスとその墓地遺跡 [エジプト]  
 ギーザからダハシュールまでのピラミッド地帯  
 法隆寺地域の仏教建造物 [日本・奈良県] 厳島神社 [日本・広島県]

**自然遺産** すぐれた地形や地質、生態系、景観、絶滅のおそれのある動植物の生息・生息地などを含む地域

代表例 ▶ グランド・キャニオン国立公園 [アメリカ]  
 屋久島 [日本・鹿児島県]

**複合遺産** 文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えている遺産

代表例 ▶ マチュピチュの歴史保護区 [ペルー]

**【世界遺産登録件数】**  
 <2015年7月現在>

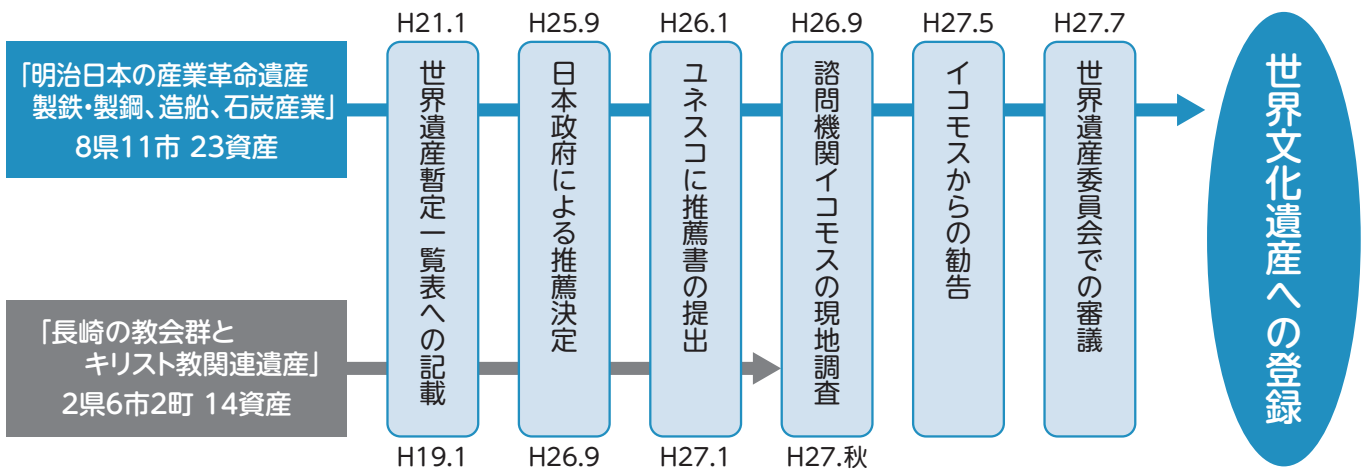
<b>世界 1,031 件</b>	<b>国内 19 件</b>
(内訳)	(内訳)
・文化遺産：802件	・文化遺産：15件
・自然遺産：197件	・自然遺産：4件
・複合遺産：32件	

## 日本の世界遺産

登録物件名		登録物件名	
1	法隆寺地域の仏教建造物	11	琉球王国のグスク及び関連遺産群
2	姫路城	12	紀伊山地の霊場と参詣道
3	屋久島	13	知床
4	白神山地	14	石見銀山遺跡とその文化的景観
5	古都京都の文化財	15	小笠原諸島
6	白川郷・五箇山の合掌造り集落	16	平泉－仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺産群－
7	原爆ドーム	17	富士山－信仰の対象と芸術の源泉
8	厳島神社	18	富岡製糸場と絹産業遺産群
9	古都奈良の文化財	19	明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業
10	日光の社寺		

## 2つの世界遺産の世界遺産登録までの歩み

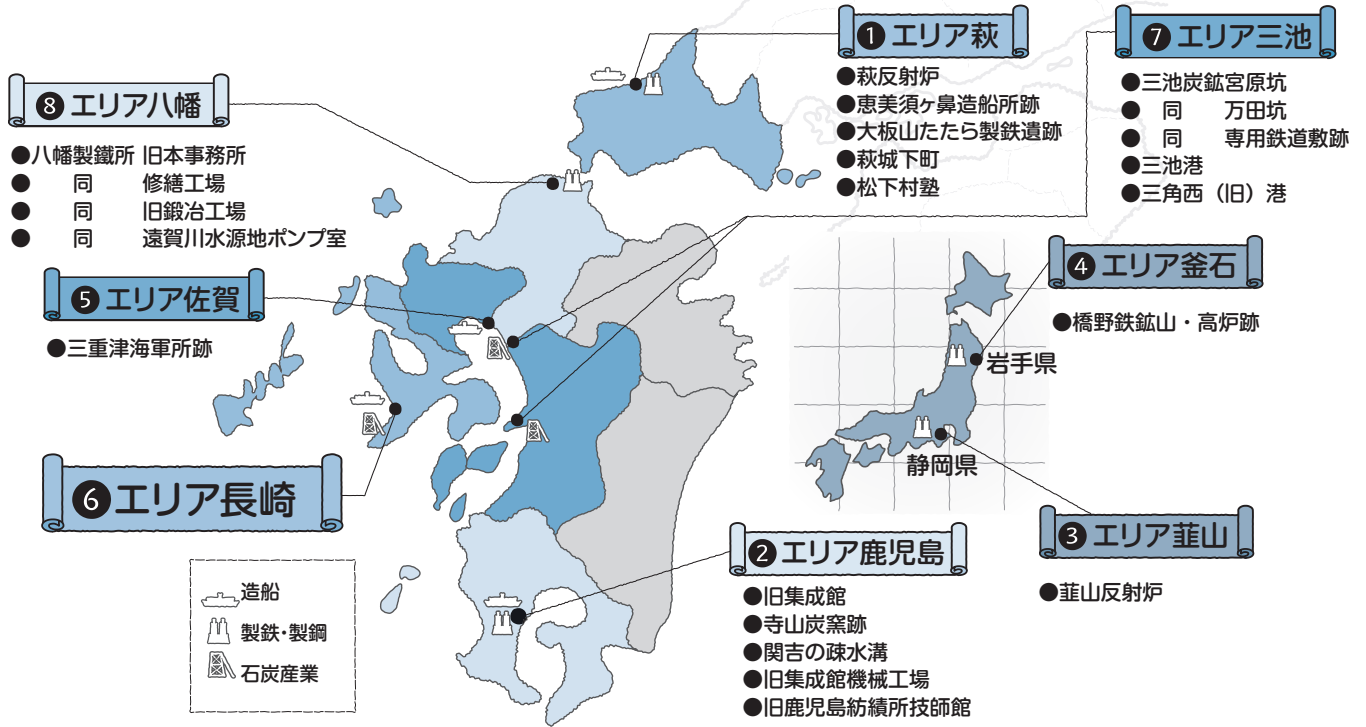
産業革命遺産とキリスト教関連遺産のどちらもいくつかの資産をまとめて1つの世界遺産とする「シリアルノミネーション」という手法をとっています。



# 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」

## ●「明治日本の産業革命遺産」とは

明治日本の産業革命遺産は、幕末から明治期のわずか50年という短い期間で、わが国が非西洋地域で初めて、後に日本の基幹産業となる製鉄・製鋼、造船、石炭産業と重工業において産業化を成し遂げたことを、8県11市の23資産により証明しています。



## ●3つの産業における発展段階の紹介

「製鉄・製鋼」「造船」「石炭産業」の産業化の歩みは、次の3段階の段階を経ています。

- ① 試行錯誤の実験  
蘭書を片手に、試行錯誤での鉄製大砲鑄造への挑戦や洋式船の模倣を行った。
- ② 西洋技術の直接的導入  
西洋技術が導入され、技術の運用による専門知識の習得を行った。
- ③ 産業化の完成  
国内に人材が育成され、国内需要や社会的伝統に合った西洋技術を積極的に導入し、産業化を完成させた。

## 段階を追って成長した3つの産業 1850年代から1910年

	1850年代	1910年
製鉄・製鋼	試行錯誤の実験 鹿児島 旧集成館 釜山 釜山反射炉	産業化の完成 八幡 官営八幡製鐵所
	西洋技術の直接的導入 釜石 橋野鉄鉱山・高炉跡	
	試行錯誤の実験 萩 萩反射炉 恵美須ヶ鼻造船所跡 大板山たたら製鉄遺跡 萩城下町 松下村塾	
造船	鹿児島 旧集成館	長崎 三菱長崎造船所・第三船渠 ・ジャイアント・カンチレバークレーン ・旧木型場 ・占勝閣
	佐賀 三重津海軍所跡	長崎 小菅修船場跡
		長崎 旧グラバー住宅
石炭産業		長崎 高島炭坑
		三池 三角西(旧)港
		三池 三池炭鉱・三池港

## 【造船】

1855年、幕府が長崎海軍伝習所を設立し、1857年に長崎鋳鐵所(長崎造船所の始まり)の建設に着手したのを機に長崎の造船の歴史がスタートしました。

### ① 小菅修船場跡

1869年にグラバーが薩摩藩と共同で建設した船の修理工場で、日本で初めて蒸気機関を動力とする曳揚げ装置が導入されました。曳揚げ小屋の中には当時使用していた装置がそのまま残っています。(内部は非公開)

また、船をのせる台の形がそろばんに似ていたことから通称「ソロバン Dock」と呼ばれています。

#### ▲ 実際に行ってみよう! ▲

地元の方が案内ボランティアとして説明を行います。

※土日祝日のみ <時間>午前9時～午後4時 <申込>不要 <案内料>無料  
《アクセス方法》JR長崎駅から長崎バス(野母崎半島方面(戸町経由)乗車)15分、小菅町バス停下車、徒歩5分 ※駐車場はありません。



### ③ 三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン【非公開】

1909年に日本で初めて建てられた電動クレーンです。もともと飽の浦に建てられていましたが、工場の拡大のため1961年に現在の場所に移設されましたが、今でも蒸気タービンや大型船舶用プロペラの船積み用に使用されています。



### ② 三菱長崎造船所 第三船渠【非公開】

1905年に建設された当時東洋最大のドックで、建設時に設置された英国製の電動機で駆動される排水ポンプは100年後の今も稼働し、ドライドックの機能を維持しています。



### ⑤ 三菱長崎造船所 占勝閣【非公開】

第三船渠の近くの丘に建築された木造二階建洋館です。

1904年に長崎造船所長の住居として建てられましたが、所長宅としては使用されず、進水式などお客様をもてなす迎賓館として使用されています。



### ④ 三菱長崎造船所 旧木型場【要予約】

長崎造船所に現存する最も古い建物で、1898年に鋳物を作るための「木型」を作る工場として使用されていました。現在は、長崎造船所の歴史を紹介する史料館として一般公開(事前予約制)されています。



#### ▲ 実際に行ってみよう! ▲

JR長崎駅前からシャトルバスに乗車してください。

《施設維持管理費》大人(高校生以上)800円、小・中学生400円  
《休館日》毎月第2土曜日、12/29～1/4、長崎造船所一斉停電日  
《お問い合わせ》095-828-4134(三菱重工業㈱長崎造船所史料館)

## 【石炭産業】

もともと高島で石炭が取れることは17世紀から知られており、当時は地表に露頭している石炭層を人力で掘り出していました。19世紀に入り、グラバーが蒸気機関を使った採炭技術をもたらし、近代炭鉱がスタートしました。

### ⑥ 高島炭坑(北溪井坑跡)

開国に伴い、蒸気船の燃料として石炭の需要が高まり、1868年、佐賀藩がグラバーとともに炭坑の開発を始めました。その後、1869年、日本で初めて蒸気機関を動力とした高島炭坑(北溪井坑)が開坑しました。高島炭坑の採炭技術は、日本の炭鉱開発の近代化の先駆けとなり、端島炭坑をはじめ三池炭鉱など日本各地の炭鉱に広がりました。

#### ▲ 実際に行ってみよう! ▲

《アクセス方法》高島行き高速船に乗船し、高島港ターミナルから徒歩25分。  
また、高島港ターミナルバス停乗車、本町バス停下車徒歩1分  
◎電気自動車・電動アシスト付自転車のレンタルを行っています。  
《お問い合わせ》095-896-3110(高島行政センター)



### ⑦ 端島炭坑(通称：軍艦島)

高島炭坑の技術を引き継ぎ、発展させた炭鉱の島です。1890年に三菱の経営となり、本格的に採炭が開始されました。採掘作業は海面下1,000mの地点にまで及び、1891年から1974年の閉山までに約1,570万トンもの石炭が採掘されました。採炭される石炭は良質であったため、国内外の石炭需要を賄い、官営八幡製鐵所にも供給されました。

#### ▲ 実際に行ってみよう! ▲

《アクセス方法》島の上陸には上陸ツアーへの参加が必要です。軍艦島上陸ツアーのコース、運航日程、料金、予約・問合せ先は各船会社によって異なります。



## 【造船】&【石炭産業】

トーマス・ブレイク・グラバーはスコットランド出身で、開港後間もない長崎で「グラバー商会」を設立しました。小菅修船場の建設や、高島炭坑の開発に協力するなど、後に日本の主要産業となる石炭・造船分野の近代化に大きく貢献しました。

### ⑧ 旧グラバー住宅

1863年に建てられた、現存する日本最古の木造洋風建築です。グラバーの住宅だけでなく交流の場所として使われました。グラバー住宅は、増築や模様替えが行われ、明治中期には上空から見た屋根の形が四つ葉のクローバーのような現在の姿となりました。

#### ▲ 実際に行ってみよう! ▲

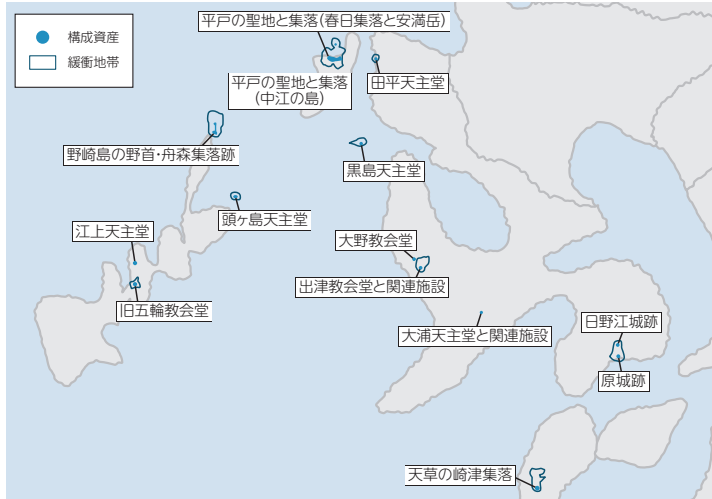
《アクセス方法》路面電車「大浦天主堂下電停」もしくは「石橋電停」下車、徒歩約8分  
《入場料》大人610円 高校生300円 小・中学生180円  
《開園時間》8:00~18:00 ※季節によって変動あり(無休、最終入園は20分前まで)





# 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」

長崎の教会群とキリスト教関連遺産は、16世紀中頃から17世紀前半におけるキリスト教の伝播と普及、17世紀後半～19世紀前半の禁教下の継承、19世紀半ばからの解禁後の復帰という3つの段階からなり、西洋文化との遭遇の中で生じた、日本におけるキリスト教の受容過程を示す類まれな遺産です。これらを16世紀の東西交流とキリスト教の伝播を示す「城跡」、信仰が禁教下にも密かに継承され人々の生活に浸透していたことを示す「集落」、19世紀の再宣教により長崎地方各地の集落に建てられた「教会建築」の3分野に分類される14の構成資産からなります。250年にもわたる長い弾圧の歴史的背景の中、日本的な生活環境、自然環境及び民族的習慣に独自の形態で順応した宗教的・文化的伝統が形成され、農漁業集落と一体になった景観が保存されています。



### 長崎におけるキリスト教の歴史

長崎は、日本におけるキリスト教の歴史を象徴的に伝える場所

戦国時代	安土・桃山時代	江戸時代
1549 キリスト教伝来	1584 天正遣欧使節、 フエリベ2世に謁見	1614 全国に禁教令発布
1590 ザビエル 平戸で布教開始	1595 天正遣欧使節、 ローマ教廷に謁見	1636 出島が完成
1563 大村純忠が初の キリシタン大名へ	1597 秀吉が 伴天連追放令を発布	1637 島原・天草の乱勃発
	1597 二十六聖人殉教事件	1644 最後の神父が殉教
		1657 大村藩の郡崩れ
		1800年頃～ 1895 天草崩れ

西洋文明の伝播とキリスト教の繁栄 → キリスト教への弾圧と海禁(鎖国)への動き → 潜伏キリシタン

江戸時代	明治時代
1853 パリー来航	1868 五島崩れ 高札撤去
1864 外西人居留地に 大浦天主堂建設	1873 キリスト教禁教の 以降、外海・五島の 潜伏の地などに 教会堂建設
1865 信徒発見	
1867 浦上四番崩れ	

この250年もの長期に渡る潜伏からの奇跡の復活という世界に類を見ない劇的な「キリスト教の歴史」が世界遺産としての価値です。

による信仰の継承 → 開国とキリスト教信仰の復活

## ② 出津教会堂と関連施設



外海は禁教下においてもキリスト教信仰が組織的に継承されてきた地域です。

18世紀になると、外海から五島列島などの開拓移住が行われ、外海は移住先に潜伏キリシタンの信仰組織が形成された基点となった場所です。

1873年のキリスト教解禁後、ド・ロ神父の指導のもと、1882年に出津教会堂が建てられました。またド・ロ神父は慈善事業にも力を入れ、女性の自立を促すため、1883年に授産施設として出津救助院を創設しました。

出津教会堂と関連施設は、出津教会堂と旧出津救助院からなる、19世紀の教会堂とそれに関連する施設群となっています。

## ① 大浦天主堂と関連施設



大浦天主堂と関連施設は19世紀の開国後に居留地の外国人のために、パリ外国宣教会の宣教拠点となりました。

大浦天主堂は開国後に来日した外国人宣教師によって1864年に建てられました。それまでひそかに信仰を継承していた信徒発見の舞台となり、これを契機に多くの人がキリスト教に復帰することとなりました。キリスト教解禁以降は、パリ外国人宣教会の日本における再布教の拠点となり、各地の集落に教会堂が建設された起点となりました。大浦天主堂と関連施設は、大浦天主堂や旧羅典神学校などの施設がある教会堂の境内地が構成資産となっています。

### ▲ 実際に行ってみよう! ▲

【アクセス方法】 JR長崎駅から路面電車(石橋行)乗車、大浦天主堂下電停車後徒歩4分

【拝観料】 大人600円、中高生400円、小学生300円

【拝観時間】 8:00～18:00 (無休、最終受付は17:45まで)

## 教会群と一体となった文化的景観

外海地域は急峻な地形であり、開墾した際に数多く出土した結晶片岩という変成岩が作り出す特有の石積み風景が特徴です。田畑や宅地の石垣、水路や護岸の石積みのほか、住まいや墓石など生活に密着する多種多様な石積みが地域の人々によって築かれてきました。石積みは、結晶片岩に赤土と藁すさを練り込んで築いた伝統的な石壁である「ネリベイ」のほか、明治期にはド・ロ神父によって、藁すさに代わり赤土に石灰を混ぜる練積みの石垣である「ド・ロ壁」が導入され、現在もこうした石積み構造物を数多く見ることができます。特に出津地区は重要文化的景観「長崎市外海の石積集落景観」に選定されています。

## 【教会見学時のマナー】

教会は信者の方々にとって大切な祈りの場であって観光施設ではありません。観光を目的として訪問される際には教会でのマナーをよく守り、お互いが気持ちよく過ごせるように心がけてください。

## これだけは守っていただきたいこと

- ・内陣(祭壇)の所は神聖な場所です。絶対に立ち入らないようにしましょう。
- ・ミサ(礼拝)は神聖な儀式です。写真撮影は止めましょう。
- ・教会内での飲食や、タバコの喫煙は禁止です。
- ・大声で騒いだり走り回るのもマナー違反。特に子どもさんをお連れの場合は同伴者が気を配って見学するようにしましょう。
- ・教会堂内にはいろんな物(聖書、祭礼品、装飾物など)があります。むやみに手を触れないようにしましょう。
- ・教会のトイレは信者さんのためのものですので、できるだけ教会以外のトイレのご利用をお願いします。

## ③大野教会堂



1893年にド・ロ神父により、外海地域の太田地区周辺の26戸の信者のため、出津教会堂の巡回教会として建てられました。ド・ロ神父が信者と力を合わせ、現地の石を積み上げた独特の外壁(ド・ロ神父考案の「ド・ロ壁」)が特徴の教会です。大野教会堂は、日本の伝統的な技術と西洋技術の融合により建てられた特色あるもので、地域の信仰組織を象徴する素朴かつ独特な教会です。

## ▲実際に行的ってみよう!▲

《アクセス方法》長崎駅前バス停から長崎バス(さいかい交通)「板の浦」行き乗車、大野バス停下車後徒歩20分。

《入場料》 無料

《開館時間》 なし

※原則施錠されておりまして、外観のみの見学となります。



## ▲実際に行的ってみよう!▲

### ・出津教会堂

《アクセス方法》 JR長崎駅前バス停から長崎バス(さいかい交通)「板の浦」(桜の里経由)行きに乗り、出津文化村バス停で下車後徒歩15分。

※桜の里経由のバスには、時間帯によって桜の里での乗換便と出津までの直行便があるためバス会社にご確認下さい。

《入場料》 無料

《開館時間》 9:00 ~ 17:00

《注意》 第1・第3日曜日10時まではミサの執り行いのため堂内見学は出来ません。

※ミサ、冠婚葬祭時には不可の場合もあります。閉まっている場合もあります。

※見学ご希望の方は長崎の教会群インフォメーションセンター(電話095-823-7650)へ事前連絡をお願いします。教会への直接のご連絡及びお問い合わせはご遠慮ください。

### ・旧出津救助院

《入場料》 大人300円 中・高生200円  
小学生150円

《開館時間》 火~土曜日9:00 ~ 17:00  
日曜日・8/15・11/7・12/25  
11:00 ~ 17:00

《休館日》 月曜日(祝日の場合は翌日)、  
12月29日~1月6日

### ・ド・ロ神父記念館

《入場料》 大人300円 小・中高生100円  
(外海歴史民俗資料館と共通入館券)

《開館時間》 9:00 ~ 17:00

《休館日》 12月29日~1月3日

## プロジェクトの取り組み

### ●2つの世界遺産登録の実現に向けて取り組みます。

#### 世界遺産登録記念イベントの実施

世界遺産登録決定の瞬間を祝うパブリックビューイングを実施しました。また、世界遺産登録記念として7月25日（土）にはシンポジウムを開催いたしました。



#### イコモス現地調査への対応

今年9月～10月にユネスコの諮問機関であるイコモスによる現地調査が行われる予定となっており、調査受け入れに向けて準備を進めています。



### ●文化遺産を後世に守り伝えるために、保全整備を行います。

#### 高島炭坑（北溪井坑跡）、端島炭坑（通称：軍艦島）

平成25年度から高島炭鉱整備活用委員会において協議を進めており、平成27年6月には保存と活用についての基本方針等を取りまとめた保存管理計画書案の報告を受けました。今後は整備の優先順位と年次計画を定めた整備活用計画書を平成27年度中に策定しその内容に沿った保全整備を行っていきます。



### ●観光客の受入態勢を整備し、満足度の向上を図ります。

#### 高島地区への電気自動車・電動アシスト付自転車の配置

高島にて電気自動車と電動アシスト付自転車のレンタル事業を行っています。



#### 構成資産周辺に案内人及び誘導員の配置

小菅修船場跡及び高島炭坑（北溪井坑跡）では案内ボランティアが資産について説明を行っています。また、小菅修船場跡では土日祝日に誘導員を配置しています。



#### 情報通信技術を活用したガイドシステムの構築

7月から旧グラバー住宅、高島炭坑（北溪井坑跡）、小菅修船場跡、旧木型場にて簡易Wi-Fiを使った案内を開始しました。4か国語（日・英・中・韓）に対応しており、資産の周辺で使用することができます。（お持ちのスマートフォンまたはタブレットにて見ることができます）



#### 出津地区及び大野地区の修景、駐車場、トイレ、歩行者ルート整備

現在、平成28年4月の完成を目指し、駐車場及びトイレ、歩行者ルートのための整備を行っています。



## インフォメーション施設の設置

長崎駅に長崎市世界遺産観光案内所を設置し、各構成資産の案内を行っています。

また、グラバー園内の旧スチール記念学校に産業革命遺産インフォメーションコーナーを設置しているほか、外海地区の歴史民俗資料館においても教会群のインフォメーション施設の設置に向けて準備をしています。

## 各構成資産を見に行ってみませんか？

各構成資産を実際に見てみると、テレビやガイドブックなどでは分からない魅力が伝わってきますのでぜひ一度足を運んでみてください。